2025　年度　　（令和　　7　　年度）　　学校評価自己評価表

芦田　　中学校区	校番　41	福山市立　　福相小　　学校

最終更新日	2025年(令和７年)４月１日

Ⅰ　福山市

ミッション	福山に愛着と誇りをもち、変化の激しい社会をたくましく生きるこどもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、こどもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
・学校だより、行事紹介の写真等を資料とし、学校の取組や近況を具体的に説明した。 ・校区内の３校を順に会場とし、評価委員全員にそれぞれの学校を見ていただいた。 ・それぞれの地域には歴史と伝統があり、そのことを踏まえた教育内容を継承していく。 ・校区内児童生徒が伸びるようそれぞれに工夫をして、教育活動に当たっていく。 ・行事の開催や取組の仕方について、今後も保護者・地域住民の方々への理解と協力を仰ぐとともに、連携を図る。	・落ち着いた状況と温かい雰囲気の中で、生き生きと活動をしている。 ・基礎学力は概ね定着しており、学習に対する意欲は高い。ペア、グループでの活動の充実により、積極的に発表できるようになっている。また、協働的に課題を解決しようとする意欲も出てきている。 ・友だちの意見から自分の考えを深めることには課題がある。 ・「自分にはよいところがある。」の肯定的評価の割合が年々高まってきている。

育成する力 資質・能力	課題解決・意思決定、コミュニケーション、思いやり
めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	ふるさと芦田に愛着と誇りをもち、未来を切り拓き、たくましく生きる児童生徒
中学校区として 統一した取組等	「児童生徒主体の学び」の創造 〇取組推進のための校区全体研修会による活動 ・楽しい授業づくり（主体的・対話的・深い学び） ・考え、議論する道徳の授業づくり（理論研修・教材分析・授業研究会） ・学力・生徒指導・体力向上（調査等の分析・改善策の検討・取組実施） ・ＳＤＧｓ教育の推進（教育活動への位置付け・教科や学年を超えた枠組の構築）

Ⅲ　自　校

ミッション
地域に誇りをもち　目標をもって　主体的に活動するこどもの育成

学校教育目標
「自ら学び　心豊かで　生き生きと活動するこどもの育成」 ～　学びを深める　学びをつなげる　～

現　状
〈児童生徒〉 ・【知】全国学力・学習状況調査より 〈国語科〉では、全国平均を７ポイント以上上回っている。しかし「書くこと」に関しては課題が見られ、主述の問いにおいて述語に近い修飾語を主語と判断している児童が多い。〈算数科〉では、全国平均を１０ポイント以上上回っている。しかし「データの活用」の領域では、表やグラフを多面的に見て、考察する力に課題が見られる。 ・【徳】令和６年度児童生徒学習意識等調査　児童質問紙より 「将来の夢や目標があり、粘り強く努力ができる」と自己評価している児童が多い。また「地域や学校を大切にしている。」の肯定的評価も高い。しかし、自分の考えを伝えることや自尊感情に関わる項目の肯定的評価に課題がある。 ・【体】令和６年度広島県児童生徒の体力・運動能力、運動習慣等調査より 男子は９種目中７種目で県や国の平均を下回っている。男女ともに、20mシャトルランと50m走に課題がある。 〈昨年度の研究〉 「学びのよさを実感する授業づくり」を研究テーマとし、①学習課題を大切にした授業②協働の場の工夫③考えを深める問いやしかけのある授業④振り返りの充実⑤自己決定の場の工夫の５つの指針をもとに具体的な手立てを計画し、指導案検討会、模擬授業、授業公開、事後協議を通して研究を進めた。その結果、後期福山100NEN教育アンケートの「教科の面白さを実感している」と「研修により、新しい発見や取組を見直すことがある」の項目において「**よく**あてはまる」と回答する教員が、前期との比較においてそれぞれ31ポイント増、44ポイント増となった。

育成する力 資質・能力		課題解決・意思決定	コミュニケーション	思いやり
めざすこども像	小１･２	課題に対してあきらめずに取り組み、類似点・相違点を見つけたり、理由付けをしたりしながら表現している。	自分の考えをはっきりと、最後まで伝えている。	学校や地域の人に自分から声をかけている。身近な人に温かい心で接し、親切にしている。
	小３･４	課題に対して見通しをもち、他の考えと比較したり、それを基に新たな発見をしたりしながら解決している。	友だちの考えとつなげたり、比較したりしながら話している。	学校や地域の人と自分から関わろうとしている。相手の気持ちを考えて、進んで親切にしている。
	小５･６ 中１	自ら課題を見つけ、複数の情報を基に、類推したり、深化させたりするなど、工夫しながら解決している。	話し手の意図を考えながら聞いたり、相手の意見を受けて自分の考えを話したりしている。	学校や地域をよりよくするために行動している。相手の立場に立ち、誰に対しても親切にしている。
	中２･３	自らの考えをもち、既習事項、収集した情報や生活体験などを根拠にして、比較、分類、関連付けて物事を考え、解決している。	多様な他者との意見の違いを認め、思考・判断したことをわかりやすく表現したり、議論したりしている。	地域や社会との関わり合いを通して、人としての思いやり、周りへの感謝の心をもち、その気持ちを行動や言葉に表している。

研究	テーマ	算数科図形領域における「見る」活動を通した、筋道を立てて課題を解決する児童の育成
	内容等	・算数科の図形領域に研究範囲を絞り、筋道を立てて課題を解決する力の育成を図る。 ・発達段階に応じて図形を「見る」手立てを工夫し、図形を分析して認識する力を高める。
めざす授業の姿		算数科を軸として、 以下の五点を「めざす授業の姿」及び「授業改善のポイント」とし、学びづくり案の中に「研究主題に迫る指導の手立て」を明示し具体策を協議していく。 ・　児童の疑問や興味関心から解決したい思い（学習課題）を大切にした授業 ・　児童が考えを表現する場、協働して考える場を大切にした授業 ・　児童が見方・考えを深める問い（発問）やしかけがある授業 ・　児童が学びを実感する、振り返りの場がある授業 ・　児童が自ら選んだり決定したり、児童に任せる場を大切にした授業